

2015年5月12日

『“酒粕”と“米麴”を使用した甘酒』の飲用で “目の下のクマの改善”が見られました！

森永製菓株式会社(東京都港区芝、代表取締役社長・新井 徹)は、「甘酒」の持つ健康効果に関する研究を進めており、これまでも『甘酒が暑さからのストレスの回復を早める』ことについて、研究成果をリリース発表しております。

今回は新たな取組みとして『“酒粕”と“米麴”を使用した甘酒』の美容・健康効果について、東京工科大学 前田憲寿教授(医学博士)との共同研究を行いました。



40～60代の女性17名を対象に、「甘酒」と「プラセボ」をコントロールにおいた効果試験を実施しました。1ヶ月間の継続飲用の結果、「目の下のクマ」について測定装置を用いた評価で、甘酒群はプラセボ群に対して“目の下のクマの明るさの有意な改善”が認められました(図1)。また、主観的評価(VAS試験)でも甘酒群でのみ、プラセボ群では見られない飲用前後の「目の下のクマの有意な改善」が得られ、実感をともなった改善であることが分かりました(図2)。

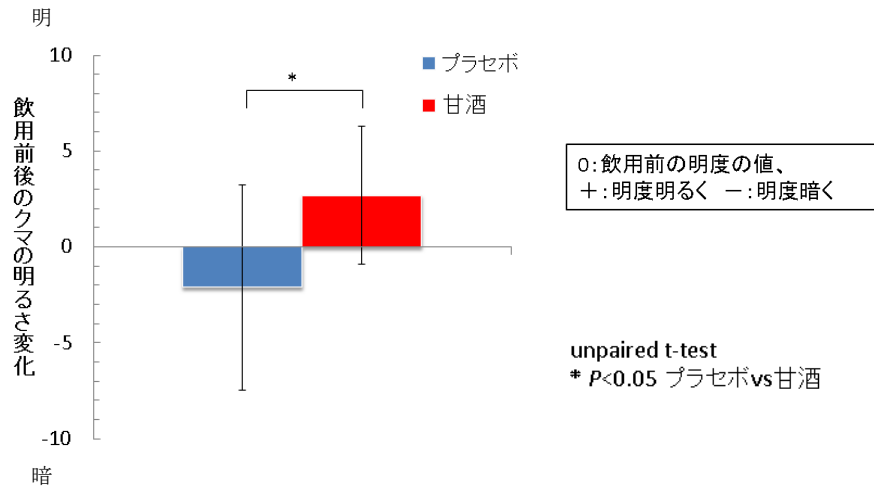
さらに、「皮膚の表面温度」においても甘酒群でのみ飲用前に比べて、飲用後には表面温度の上昇が見られ、“老廃物排泄促進”などがクマの改善に関与した可能性が示されました(図3)。

他にも主観的評価(VAS試験)で「髪のはつや」、「朝の目覚めの良さ」でも甘酒群でのみ有意な改善が見られました(図2)。

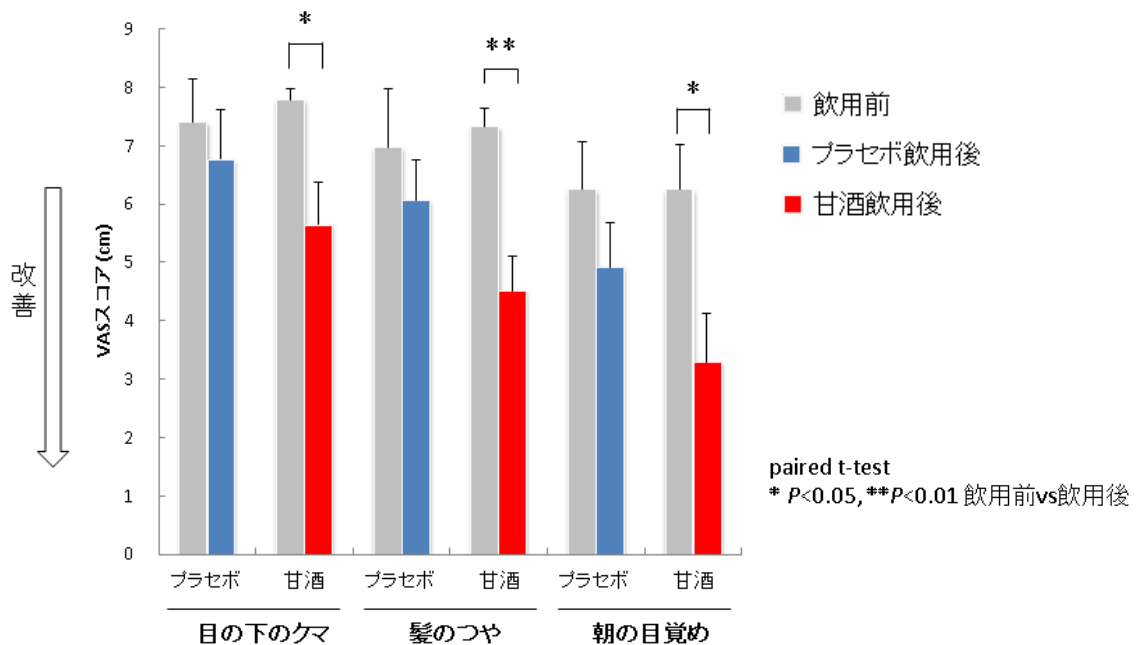
「“酒粕”と“米麴”を使用した甘酒」を継続的に飲用することで、美容や健康に良い影響が期待できることが示唆されました。

森永製菓では、今後も「甘酒」に関する研究に取り組んでまいりますので、ご期待ください。

(図 1) 飲用前後のクマの明るさ変化を見た実験結果

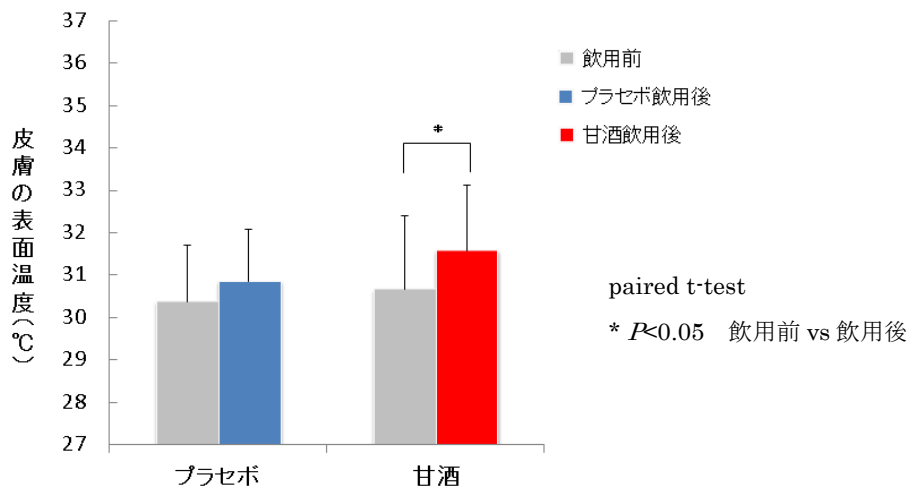


(図 2) 「目の下のクマ」「髪につや」「朝の目覚め」の主観的評価 (VAS 試験※) 結果



※VAS: 10cm 線の左端を最も良い状態、右端を最も悪い状態とし、試験前後に被験者に現在の状態をしるしをつけてもらい、それが左端から何 cm かを測定する方法。数値が小さくなった分だけよい状態になったことを示す。

(図 3) 皮膚の表面温度変化結果



■甘酒肌試験の実施概要

【実施時期】

2014年11月から1ヶ月間

【対象者】

40～60代の便秘気味で肌荒れが気になる健常者女性17名

【試験飲料】

試験飲料として酒粕、米麴入りの甘酒と、対照飲料としてカロリーを試験飲料と同レベルに設定した酒粕、米麴なしの甘酒風味の飲料(プラセボ)を用意した。

1回目と2回目の測定の間、1ヶ月間毎日朝晩2回飲用。

【試験方法】

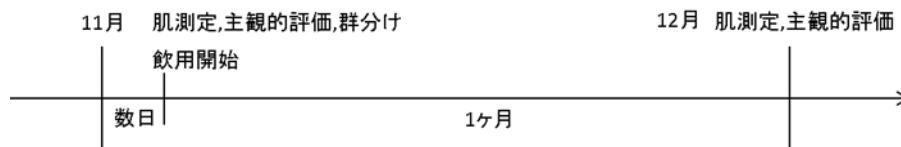
2群(プラセボ群、甘酒群)のシングルブラインド試験。

【試験項目】

主観的評価(VAS試験)

各種肌測定(恒温恒湿度室)

【実験の手順】



【結果】

カロリーや風味をそろえたプラセボと比較して、甘酒を摂取することで、肌測定結果では、表面温度や目の下のクマの明るさが有意に上昇した。また、主観的評価では髪のかげ、目の下のクマ、朝の目覚めの良さについて甘酒群でのみ、有意な改善が見られた。